







ひゃあ

「最初のころはもっとウブで
キゴちなかったんだけどなあ
初めてやったのは嬢ちゃんのお店だったけか」

ちびっ

「よく店に来るキモいおっさんだと思ってたら
閉店前にイキナリ襲いかかってきたよね
メチャクチャに犯されたし♡」

らめ

ひび

「ぐひっ」

ずっとポーリング好きな客の
フリして狙ってたんだぜ♡
どーやって犯してやろうかなってなあ

今じゃこーんなに
指でマ○コが広げられるくらいに
なったしな♡

「ひゃあ!!らめっ

広げすぎっ
ひろげすぎだよお!」

「」の小っちええま○に
挿入ののかと思っただけどよ
根元まで啜え込んできやがるし♡」

あ

ヌキョ

ヌキ

ヌキョ

ヌキ

ムチ

ムチ

ムチ







「お・・オレももう限界だわ
ナカにたっくぷりブチまけてやるぜっ」

ぬちゅちゅ

ヌチユ

「ダメっ！」

体じゅう精液まみれにしてえ
おっちゃんのクサいので
べちヤべちヤにしてよお♡」

はー

はあ

「ったく…
腹の中セーシまみれに
してやろうと思ったのによお
ぶっかけて欲しいって
どんだけヘンタイなんだよっ♡」

はあ

はあ♡

はー

「はやくダしてっ♡
ほらっ
ワキにビュっってっ♡」



「しゃーなーなあ

ほらよっ

お望みのザーメンだっ♡」

「うわあっ！

チ○ポ汁すごい♡

さっきあんなに射精したのに
濃すぎるだろお♡」

どっぴろっ！

びちゃっ！

「うへえ♡

我ながらきたねえザーメンだぜ
ハルちゃんのネクタイにも
かかっちゃまったなあ♡」

ケチ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

びちゃっ♡

「ひはああ♡♡

ハルちゃんもセーシマみれだあ♡
好き♡セーシ好き♡
おっちゃんのプルプルち○ぽミルク
もっとダしてよお♡」

ち○ぽみ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ

ち○ぽ





「ちよっ…」

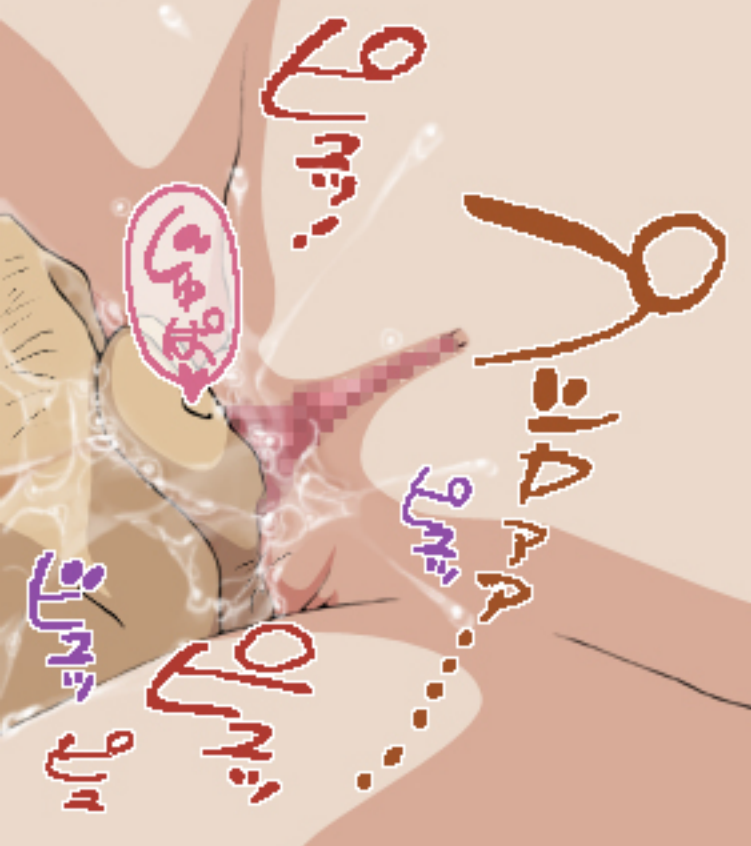
そんなにコスちやイヤあ…
出ちやうっ
おしっこでちやううう」

「いいぜっ♡
イっちまいなよ

きっねえオツサンに
指でイジリまくられてイっちまえっ！」

「おおおおああ…
らめえ…
れちやったああ…♡」

「スゲえなあ♡
手がエロ汁で
ベタベタになっちまったよ♡」





「そんじや

オレも気持ちよくしてもらおうかな

そうだなあ・・・

フェラもイイがほっぺたで

シゴいてくれよ」

「ほっぺでって・・・

うわっ!!アツいっ

お〇んちん熱くて

ビクンビクンってしてるよお♡」

びっ

あゝ

「ほおら、
シゴってシゴって・・・」

アキユ

「うひい♡

あゝ

あゝ

アキユ

アキユ

あゝ

あゝ

あゝ

先走り汁と穩乃ちゃん汁で
ヌルヌルしてたまんねえわ♡」



「えっ!!？」

ひゃあああ」

「おっわりいわりい♡

あまりにキモチよすぎて
つい射精しちゃったよ♡」

バ
ブ
ウ
ウ

ハ
ヤ

ハ
ヤ

ビ
ャ
ッ

「んん」

お
ん
た
ん

は
あ

は
あ

「こ…これなに？
ねばねばしてるし
スゴく臭いニオイがするよお」

「何だあ知らねえのかあ
セーシだよセーシ♡

「こいつを今からたーっぷりと
穩乃ちゃんのま〇こに
流し込んでやるからよお♡」

ひ
ん
な
ん



「おっと

まだ挿入れちゃダメだぞお♡

ほらま○こでコスって

穩乃ちゃんのドスケベ汁で

べたべたにしてくれよっ♡」

「ひゃふっ！」

おっちゃんのチ○チン

ヌルヌルいっぱい出てるう」

ヌルッ

ズシッ

ズシッ

ズシッ

「ヒヒっ♡

ニユッ

ニユッ

ヌルッ

ヒクッ

そりゃ穩乃ちゃんのマン汁だぜっ
もう大洪水ってレベルじゃねーな♡」

ヌルッ

ヌルッ

「ガマン出来ねえくらい
キモチいいだろ」

「うんっ♡

アソコがジーンジン

熱くなってるの♡」

「いひひっ♡

チ○ポ挿入したら

こんなもんじゃねえぞ♡」

はあ

「も……

もうイれてよおっちゃん

ジラしちややだよお

チ○チンちよーだい♡」

はあ

はあ



はー

「あぁあつ

こんなのお
こんなカッコ
ハズカしすぎるよおお」

「やっぱり若い娘のま〇いは
たまらんわ♡

チ〇ポ引き干切られそうだった」

はあ

んが

はー

「シメつけハンパねえっ♡
グッチョンぐっちよんって
エロい音聞こえるだろ♡」

「聞こえるう

お汁いっぱい出てるのぉ♡」

「あはあ♡

ち〇ちんスゴイい

出たり入ったりしてるよぉ♡」

んんん

んんん

んんん

んんん

んんんんん

んんんんん

んん

んん

んんんん

んんん

んんん



「おっっ」

もう射精そうだわ♡

ザーメンたっぷりブチまけるからなっ」

「うんっ♡きてっ♡
ビューってしてっ♡♡
おなかの中おっちゃんので
いっぱいにしてっ♡」

「おおおおお...
デるうっっ!!」

「づあああああ♡♡

ナカダシしゅぐいいいい♡♡

あふれ出ちやうう

セーエキま〇ー」から出てきちやううっ♡♡」

「ナカに射精されるのって
サイコーだろ♡」

「うんっ♡」

クセになっちやう♡」

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

びん

びん

びん

びん

びん

びん



「玄ちゃんは
セックスすんの初めてなんだから
まずはオレのチ○チンを
好きになってもらわんと
ほら♥しゃぶって」

「し……しゃぶっ!?
「……」

「歯あ立てちやダメだぜ♥
オレが動いてやるから
しっかり啜えてなっ♥」

「うぐうっ……
ぐ……」ほおっ!!!
「や……やめっ……」

「フムフム♥
「の初々しさがいいんだよっ♥
よおし

「このままザーメン出すから
ゴックンしろよお♥」



「んんんーっ!!!」

うぶううっ!ふおお

ぶはあっ!はあっ」

「おっと

口を離しちゃダメだぞお♡

オヤジの一番搾り

しっかりと味わいな♡」

「ひぶう…ぽふあっ!」

「ドロドロ濃厚で美味いだろお♡
一度飲んだらクセになるからよ」

「ひへえ…

クサイよお

「これえやダあ…」











「じゅっ……んっ♡」

ちゅっ……ちゅぱあ……♡」

「憧ちゃんキス上手いなあ♡
やっぱりエンコーとかしてんのかい？」

「うん♡
お小遣いとか欲しいときとか
たまくにね♡」

「ひひっ♡」

ま○こもイイ具合に
濡れてきたなあ♡」

「やだあ

オジさんイジるの

上手すぎぃ♡」

『げへへ……♡

何も知らねえ生娘もイイが
こういうビッチっぽいのも
コーフンするわ』

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡



「ぶはあ...♡」

オジさんのお○んちん

いっぱい汁出てるね

全部吸い取ってあげる♡」

ふはあ

「んぎゅう♡」

んぎゅう♡ちゅばあ♡」

んぎゅう♡

『お...オイオイっ

し...舌の動きがタマランっ

口の中で皮をめくってやがるっ♡』

ちゅばあ♡

んぎゅう♡

んぎゅう♡

んぎゅう♡

んぎゅう♡

ちゅばあ♡

ちゅばあ♡

んぎゅう♡

ちゅばあ♡

「じゃあ
こんなのはどう?」

んぎゅう♡

「うほお♡

その吸い付きっ♡

こりゃスグにイっちまうよっ」

「懂ちゃん舌テクすぎすぎだわ
こんなフェラ初めてだぜ♡」







「ほれっ
後ろ向きな」

ガッ

「あううっ♡

深いいい♡

オジさあん

はげしいよお♡

赤ちゃんのお部屋

ガンガン突き上げてるう♡」

ガッ

は

は

は

ハッ

ハッ

ハッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ガッ

「待ってるっ♡
エロビッチマ○コに
たっつぷり
流し込んでやるからなっ♡」

はあ

「キてええ！」

セーエキきてっ!!

もっとチ○ポギューって
してあげるからあ♡」

はあ

「ぐうおっ!!

また締め付けがキツくなりやがったっ
マン肉がグネグネ動いてやがるっ!」



「ぬうおおおおつ

ハラめっ!!

きたねえオッサンセンサーで
孕んじまえっ!!」

「おはああああ!!!

デてるううう!!

おくまでいっぱいキてるううううう!!

「望みどおり

一滴残らずぜくんぶ

射精してやるからなっ♡」

「「……こんなのお……さい」お♡
オジさんの子供できちやうよお♡」

「ゲへへっ

またチ○ポしたくなったら
いつでも呼ぶんだぜ♡」

ドッ
あっ!!

ひん

ニ
おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

おっ!!

ひん

ひん

ひん

ひん

オホオ...

おっ!!

おっ!!



「宥ちゃんは寒がりなんだってな
なあにオレにまかせな
体じゆうポカポカになって
すっげえキモチよくなる方法を
教えてやるよ」

はき

「な……
なにをするんですか？」

「まあ言うとおりにしろって
まずおっぱいを出してだな……」

「ふえ!？」

わあ……

ギョッ

アッ

ギョッ

アッ

ニッ

アッ

ギョッ

「じうやって両手でかかえて
チ○ポを挟み込むんだよ♥」

ニッ

ギョッ

ニッ

ギョッ

アッ

「え……ええっ!
挟むんですか!？」

「どうだい

少しあったかくなってきたろ♥」

「あ……ホント……
お○んちんあったかあい」



わあ…

「そのまま挟んで
ジゴいてみ
もつと暖かくなるからよ♡」

どっぴゅ!

「ん…あうっ!
スゴい…これ
おっぱいあつうい」

スゴ!

「ぶっぶら…
こりゃ辛抱たまらんわ♡
今からチ○ポミルク射精してやんよ」

「えっ!?
み…ミルク?」

どっぴゅ!

「ひゃっ!!
これすごく熱いよお

お○んちんから
あつあつのミルクでてるっっ」



「ははは」

「よし」
準備運動は終わりだ
こっからが本番だぜ

次は手〇ポを脚で挟んで
股を思いっきり開きな

「やあ

あーっ

「……」のカッコ
なんかイヤあ

「ぶひひっ」

そんでココをコスるっ

「あうう!!ダメえ!

そこらめえ

そんなトコロすっちや

ダメなのお

「ひひっ」

イイ反応だな

ほれほれクリがデカくなってきてるぞお

ぐりぐり
ぐりぐり

ギョ
ギョ
アゲ
アゲ

ハキ
ハキ





「ふひやああ……♡
お〇んちん挿入ってるうう♡
あったかいよお♡
おなかすごく暖かいのお♡」

「イヒヒい♡
「クリやイイっ♡
宥ちゃんのま〇」
キツキツだぜえ♡」

「クリもスゲえ勃起してやがるな
パンツにこすれて
キモチいいだろお♡」

「はいいい♡♡

「イイのお♡
ふわあって飛んじやううう♡
キモチいいれふう♡」

「もっとおシてえ♡
もっとズボズボジュブジュブしてえ♡」

ふうう

はあ

んんん

あ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン







「わ・・私もっ・・
私もお姉ちゃんと一緒に
えっちなコトしたかったのっ!」

「又おおっ!!」

二人ともホンキになったなっ
こりや耐えられんっ
射精すぞっ!ブっかけるぞっ!!」

「んっ!!」

「ミルクでたあ♥♥」

「あっ射精た射精たっ♥
二人ともセーシ मामिले
エロカワイイぜっ♥」

「はふう♥
ドロボロお♥セーシ好きい♥
玄ちゃん
もっといっぱい
キモチよくなるうね♥」

「うん♥」

